

「人生 100 年時代のフロンティア県・香川」実現計画推進懇談会議事録（要旨）

日時：令和6年11月15日（金）14:00～16:20

場所：香川県庁本館21階 特別会議室

〔委員〕

- 昨日まで福井県で全国自治連合会の大会があった。大会の中の事例発表で、初めて県（福井県）が事例発表に出ている、知事から発表があった。県民の自治会への加入について、というテーマだったが、県内市町がどういう施策をしており、県がどのように助成金を出しているのかという話があった。県から施策の説明があったのは初めてであったので、報告しておきたいと思う。
- 防災について、資料2の20ページから「3 県政世論調査からの見た施策（分野別）の評価」があり、重要度の1番目は「防災・減災社会の構築」ということになっている。（p. 21）これはもう毎年、大体1番目か2番目だが、満足度になると順位が下がり、「防災・減災社会の構築」は21位である。（p. 22）つい5、6年前に比べると、少しは満足度の順位が上がってきたかなという感じがしているが、防災に取り組む立場としては、何とか平均点・平均値ぐらいまで押し上げていきたいと考えている。県は防災意識向上イベントというイベントを、昨年を引き続いて今年も実施している。先般、コメリパワー坂出店で実施され、私も朝から晩までお付き合いしたが、来場した県民の皆さんの意識が去年に比べると随分上がっていると感じた。去年までであれば、何となく入ってきて、座ってお話になるだけだったが、今年はテーマを持って来られており、お話の内容が非常に充実してきたと感じている。これは大事な要素であり、今後マルナカ白鳥店でも実施予定だが、これからも県と一緒に頑張っていきたい。
- 自主防災組織と企業連携の協定について、先般、28社の企業が参画していただいたが、自主防災組織と地域の企業が連携して取り組んでいくという非常に大切な要素であり、防災のみならず、地域の活性化にとっても非常に大きな要素になると思う。協定書の内容を細かく掘り下げるのは、覚書等でやっていきたいと考えているが、今年度末までに50社を超える企業の参画を目指して頑張っていく予定である。企業と自主防災組織の連携については、我々としても重要施策として、この2、3年はしっかり取り組んでいきたい。

〔委員〕

- 資料3「指標の目標値等の見直しについて」の2ページ目、上側の指標17「がん検診受診率」の部分だが、この令和4年度の現状について、胃だけ45.1%という現状が52.7%という見直し案となっている。目標値ではなく、現状を見直すというのはどういうことか。
- また、見直されている指標は、実績値が目標値を上回ったためということが見直しの理由になっている。それは理解できるが、すでに目標値を上回っているにも関わらず、資料3の見直しの対象になってないものも幾つかある。例えば、資料2の148ページの指標88「県産品の海外販売額（県サポート実績）」は、令和5年度で106%ということで、目標値を上回っているが、目標値の見直しにはなっていない。

い。153ページの指標90「アンテナショップの販売額（物販）」も、令和5年度で進捗率198%ということで、すでに目標値を上回っているが、見直しの対象にはなっていない。167ページの指標100「産業廃棄物の最終処分量」だが、令和4年度は309%ということで、やはり目標値をすでに達成しているにも関わらず、目標値が見直しの対象になっていない。178ページの指標107「犬猫の殺処分数」というのも、猫の進捗率については、令和3年度から283%、129%、449%ということで、こちらも見直しの対象になっていない。見直しの対象になっているものとなっていないものと、どういう違いがあるのか教えていただきたい。

〔委員〕

- 11月12日から25日までは「女性に対する暴力をなくす運動」（パープルリボン）の期間、また11月は児童虐待防止月間（オレンジリボン）であり、私も付けているが、担当課の方は紫色のリボンとオレンジのリボンを付けていると思う。資料2の44ページで「DV対策事業」は「○」評価になっているが、実際には夫婦間、結婚していないカップルの中でのDV、例えば性暴力は依然としてある。私のところでも相談の中で、どこまでが深刻かというのはあるが、妻は希望してなかったけれども、3人目の子どもができたという話があり、望まない妊娠が夫婦間でもあってはいけないということが広く認知されていない。夫婦なら仕方ないとかカップルだったら仕方ないとか、どこまでがDVになるかという認識が浸透していないと思う。今まさにパープルリボンの月間なので、評価は「○」だが、DVとはどういうものなのかということについて、周知に力を入れていただきたい。
- 指標15「県防災会議の女性委員比率」（p.43）について、令和5年度実績で20%と非常に低い。「かがわ男女共同参画プラン」では、女性比率を全体の会議で40%以上にするという目標数値がある。災害時の女性の力はものすごく強く、女性の声を生かしてほしいので、ここも見直してほしいと思う。
- 資料3「指標の目標値等の見直しについて」の指標3「地域子育て支援拠点事業実施箇所数」（p.1）で、香川県内の地域子育て支援拠点を、今は102か所あるのが103か所に増やすということでありがたいと思う。人口割にすると、香川県は地域子育て支援拠点の数が全国で6位だが、6位って微妙な感じで、せっかくだったら日本一ぐらいに言いたいなと思う中で、香川県は独自に、知事を筆頭に「かがわ子育てステーション」という取組みをしているところであるが、こういう取組みは全国的にも非常に珍しいことなので、もっと広報していただけると嬉しい。

〔委員〕

- 資料2の施策29「移住の促進」（p.91）や施策40「企業立地の促進と産業基盤の強化」（p.113）について、人口減少への対策として企業立地を進めるということは大変素晴らしいことで、経済界としても是非支援させていただきたいと思う。その中で、人口減少を抑えるためにはやはり所得を上げないといけない、そのためには企業誘致をしないといけないという、その連鎖がある。問題提起したいが、実は「地方消滅」の著者である増田寛也氏の講演会に行ってお話を聞くと、1人当たりGDP、いわゆる地域所得が10%増えると、流入人口は5%増える

そうである。その点で、香川県の全世帯の平均可処分所得は全国5位であり、非常に高い。ところが一方で、中間世帯、いわゆる可処分所得が40%から60%の所得の世帯だと、全国27位まで後退する。所得が高い人と低い人が、分かれてしまっている。要するに香川県の課題は、中間層の所得の拡大だと思う。中間層の可処分所得がなぜ低いのかについては、エビデンスがないので分からないが、物流や貿易の仕事をしている私の肌感覚で言えば、香川県は国外・県外から稼げておらず、産業構造が影響しているのではないかと考える。香川県では、国外・県外から稼げる付加価値の高い製造業の育成誘致が必要ではないか。今回、企業誘致を進めており、実績も上がっているということだが、県民の中間層の可処分所得が高くなる、いわゆる付加価値の高い製造業を誘致しないと、単に企業誘致しただけでは県民所得が上がらないので、結果として人口減少も止まらないというような現象が起こるのではないかと思う。県の「せとうち企業誘致100プラン」は大変有効な政策だと思うし、我々も支援したいと思うが、あとは誘致の内容をどうするかという問題があると思う。

〔委員〕

- 池田知事等の大変な御尽力により、このたび高校生にヘルメットの補助金を申請により出していただくということとなり、大変喜んでいるところである。今年6月末で、高校生の自転車通学者の補助金申請率は約20%強、そして補助金の期間が7月末から10月末まで延長となり、10月末時点の申請率は出ていない状況である。この15年間のデータを警察から出してもらうと、これまで144人が自転車で亡くなって、そのうち139人がヘルメット非着用であった。つまりヘルメットを被っていなかったら、事故に遭った時に脳に大きな障害が残るといったことにつながっている。そこで私自身も高校へ訪問や電話でそれぞれお願いしたところ、7月末で申請率が80%に達している高校もあった。先日、東かがわ市で講演会を開催したが、講演会が終わった後、参加していた高校生と意見交換をした際、高校生から、できればヘルメットを全員に配ってもらえないかと言われた。どうしてそう思うのか訊くと、その高校生の友達は、格好が悪いから着けない、努力義務だから着けなくていいだろうと言っているが、命を守るためにヘルメットは着けないといけなから、できたら全員に配布してもらえないかということだった。また、11月1日に内閣府主催「令和6年度交通ボランティア等ブロック講習会」があり、そこでヘルメットの着用等について県代表で発表した。その後、70分にわたって参加者との意見交換があった際、愛媛県の職員の方が来られており、愛媛県はヘルメットの着用率が約7割で全国1位だが、「愛媛県では高校生は100%着けています」と仰っていた。その根拠は、教育委員会の指導でヘルメットを着用することになっており、さらに、努力義務ではなく義務化にしているということだった。また、愛媛県の部局長会議でヘルメットを着けようということをも、みんなで申し合わせて宣言をしている。このような取組みの結果、愛媛県の県民の皆様がヘルメットを着用するようになったということだった。香川県においても、補助金を申請してない生徒たちに、是非全員にヘルメットを配布していただきたいという気持ちがあるので、御協力を賜りたいと思う。
- それとその時に、新潟大学の工学部の先生が来られており、高齢者の交通事故・

死亡事故が多いのは、横断歩道を渡りきれなくて死亡事故になっているので、渡り切れるためには体力づくりをすると効果的と考えられることから、交通安全教育と一緒に健康教室をやってはいかがかという、先生の研究に基づいたお話をいただいた。是非御検討いただきたい。

〔委員〕

- 資料2の31ページに「男性の家事・育児参画の推進」という事業が記載されており、様々な講座がなされているが、できれば講演会というよりも、実技的なもの、例えば料理や家事を男性がすぐ学んで使えるようなものを中心にしていただけるとありがたい。
- 38ページの指標12「社会全体における男女の地位について『平等』と答えた者の割合」で、県民の意識がなかなか変わっていないということでD評価になっており、「さらに効果的な広報・啓発に努める必要がある」と記載されているが、なるべく対象を絞って、例えば、中高年の男性とか管理職とか、やはり議員の皆さん方にもそういう学習をしっかりといただけるようなことができれば良いと思う。
- 39ページで「かがわ男女共同参画推進員」の委嘱や41ページで「リーダー養成講座」をされているが、せっかくなので、この講座をした後に、学んだ方々が実際に活動に結びつけられるように、グループ化などをすると良いと思う。他の自治体では、その人たちがネットワークを作って、その人たちがいろんな企画や活動をしている事例がある。講座で終わってしまうのではなく、その後のことも考えていただけるとありがたい。
- 111ページの指標60「県立図書館の利用者数」はD評価になっているが、他の図書館とのネットワークとか、例えば子ども女性相談センターと連携することによって利用者が増えるのではないかと思う。検索やリクエストをそのようにできる形を考えていただけるとありがたい。

〔池田知事〕

- いろんな方の取り組みで県民の防災意識の向上が見られるということなので、これをさらに伸ばしたいと思う。とにかく「幅広く」が大事だが、防災意識向上イベントと併せて力を入れているのが、まず住宅の耐震化である。能登半島地震でも住宅の倒壊があったし、香川県でも昭和南海地震の時に亡くなった50数名は、ほぼ住宅の倒壊で亡くなっているということである。県内には、今も戦前からの古い建物が残る心配なエリアが幾つかあるので、そのようなエリアは全戸訪問して、所有者の負担もかかるが、何とか耐震補強に踏み切ってもらえないかをお願いしている。耐震補強に応じてくれているところも増えてきており、このようなエリアは皆さん耐震補強をしてもらいたいというスタンスで取り組んでいる。家具の転倒防止についても、まだ十分に実施していただいているとは言えないので、粘り強く取り組んでいきたい。そういった取り組みを通じて、防災意識の向上も並行して図っていきけるのではないかと考えている。
- 自主防災組織と企業連携については、おかげさまで先日、多くの企業と協定を締結できた。さらに多くの企業との連携を目指すという、力強いお話もいただいた

し、私としても、企業をいろんなところで巻き込み、参画してもらおうというのは、非常に効果があることだと考えている。住民の方も、企業に勤めている方が相当いらっしゃるので、企業が動くことは、個人が動くことにつながる人が多いので、とにかく企業の巻き込みをいろんな政策で考えていきたいと考えている。

- 性暴力の関係については、いろいろ教えていただきながら、検討したい。
- 香川県防災会議の女性比率は非常に課題だと考えている。今の香川県防災会議のメンバーは、関係団体の長の方々になっていてはいるが、その関係団体の長はほとんど男性なので、メンバーもほとんど男性となっている。今後、関係団体の方に御相談して、団体の長の方の推薦で女性の代表者に入ってもらおうということも考えて、女性の方が防災の様々なことに参画してもらうことは、避難所のことを考えても一番大事なので、工夫していきたい。
- 地域子育て拠点については、市町が実施している102か所の他に、様々な団体が実施しているものがあり、毎日ではなく週に2回ぐらいだけやっているところも登録して、スマホで地図も表示できるようにしている。「かがわ子育てステーション」は200か所を超えているが、まだまだ知名度は低いと思うので、是非いろんなところで広げたい。
- 中間層の可処分所得の向上のため、付加価値の高い製造業の誘致が大事だということは、私もその通りだと思う。先日、観音寺市の三本松地区で2件の製造業の立地があったが、瀬戸内海は製造業の立地に向いているので、これからもこのような誘致ができるよう取り組んでいきたい。また、香川県では海沿いを中心に、製造業の中堅企業が立地しているが、これらの企業の事業拡大も進んでおり、事業拡大を進めることによっても中間層の可処分所得の向上につなげたい。
- 情報通信関連産業についても、昨今立地していただいている企業では、非常に高度なITの専門的な技術者を採用するだけではなく、パソコンは普通かそれよりちょっと苦手だという人も採用して、社内で教育していくという方針の企業もあった。このような企業の立地も中間層の所得向上につながってくると思うので、情報通信関連産業の企業の誘致も進めたい。
- ヘルメットは、高校生に全員、この制度を使ってもらえるように取り組みたい。車のシートベルトが死亡者を減らした事実は明らかで、それと同様に、ヘルメットの価値も間違いなくあると思うので、まずは高校生全員、そして高校生だけではなく、自転車もヘルメットが当たり前という状況を早く作れるよう、粘り強く取り組みたい。
- 男性の家事・育児参画の推進について、イベントやフォーラムでお話を聞くだけでなく、手を動かしたり、体を動かしたりして、学んだことを忘れないようにすることや、開催後のフォローアップが重要だと思う。フォローアップの方法を工夫していきたい。
- 県立図書館について、他団体との連携について御指摘いただいたので、こちらも進めていきたい。

〔事務局〕

- 資料3「指標の目標値等の見直しについて」の2ページ目、指標17「がん検診受診

率」の部分で、目標値ではなく、現状を見直すことになっているのはどうしてかという御質問であるが、一番下の「見直しを検討する理由」欄の下側の段落で、国のがん検診に関する指針の改正で国の算定方法が変わり、対象年齢が40歳から69歳、過去1年で算定していたものが、年齢が50歳から69歳、過去2年で算定することによって変わったので、それを踏まえて現状も算定し直すこととした。

- 実績値が目標値をすでに上回っているのにも関わらず、今回見直しの対象となっていない指標があるのはどうしてかという御質問であるが、指標ごとに今後の見込みなども踏まえて、見直す・見直さないということを検討した。まず、148ページの指標88「県産品の海外販売額（県サポート実績）」については、販売額は伸びているが、円安の状況もあり、一時的な増加である可能性があり、様子を見たいということで、今回は見直しを見送った。次に153ページの指標90「アンテナショップの販売額（物販）」については、こちらも販売額が伸びているが、コロナが明けた後の一時的な増加である可能性があり、様子を見たいということで、今回は見直しを見送った。次に167ページの指標100「産業廃棄物の最終処分量」については、これも309%と数字が伸びているが、本指標は景気に左右される面があり、コロナが明けた後で消費が拡大することによって、産業廃棄物の最終処分量が増加に転ずる可能性があり、様子を見たいということで、今回は見直しを見送った。最後に178ページの指標107「犬猫の殺処分数」について、こちらも犬・猫とも進捗率が伸びているという御指摘いただいたが、こちらは来年度に香川県動物愛護管理推進計画を見直すことを考えておりまして、目標とすべき数については現在精査中であることから、今回は見直しを見送った。

#### 〔委員〕

- 資料2の13ページ以降の「指標一覧」のうち、指標12「社会全体における男女の地位について『平等』と答えた者の割合」というところで、これはジェンダーギャップにもつながっていると思う。そしてこのジェンダーギャップは、若い世代の女性の流出という、人口減少にもつながっているものだと考えている。そこで香川県の取り組みとして、県内の地域におけるジェンダーギャップというものを可視化するということが必要ではないかと思う。人口の流れや流出年齢の男女比もそうだが、賃金格差や家庭内・職場内での格差といったものについて、香川県の中で、男女の比率がどうなっているかというようなギャップ指数を明らかにして、見える化していく必要があると思う。その上で、ジェンダーギャップ解消に向けて、若い世代の人々、特に小学生などの子どもたちの世代の意見も積極的に取り込みながら、その子どもたちが、ギャップのない世界でどういう未来があるのか、そのためにどういうアクションを今から行っていけばいいのかということを考えていく、そういう機会を早く作っていく必要があると考える。意見については、多様性ということもあるので、小学生、中学生、高校生、様々な立場・環境の子どもたちの意見も取り込んでいただきたい。
- 指標4「里親等委託率」について、香川県では里親制度はなかなか浸透していないように感じている。一方で、国の方は、社会的養護という理念のもとで積極的に里親支援を進めている。子どもたちを地域や社会全体で育てていくという理念は、未来の取り組みにもつながっていると思うので、是非支援体制や周知の方法に

ついて、もう少し幅広く検討していただきたい。

- 犯罪関連の指標41「刑法犯認知件数」、指標44「特殊詐欺被害総額」について、若者による犯罪予防ということで、闇バイトに関わらない・詐欺に加担しないための予防的な教育というのは、現在積極的になされていると感じている。他方で、刑事事件で若者たちに関わると、「こんな大事になると思わなかった」という発言をよく耳にする。犯罪後の処分や処遇について、あまりにも分かっていないということに驚いている。そういう意味で、刑事処罰・刑事処分といった法教育についても、できる限り早い段階からお願いしたい。
- 次に分野10「定住人口の拡大」の指標47「人口の増減」(p.91)については、確かにA評価となっているが、人口減少という意味では、全国的に見ても香川県は人口減少が進んでいるというふうに報道で知った。地域によっては危機感が大きいと感じたので、その地域間の差が分かるような形の分析も必要になってくると感じた。

〔委員〕

- 来年2025年は団塊の世代がすべて後期高齢者になるということで、香川県においては、今後10年は少しずつ高齢者が増え続けることが見込まれ、高齢者に対する医療介護が問題になるところだが、非常に独居の高齢者が増えてきている。それに対する政策はいろいろ考えられるが、都会に住んでいるお子さんが引き取られるということも多くある。それはそれで、都会で医療介護が始まることとなるが、ただそれによって、住んでいた家が空き家になるケースが増えている。そこで、逆に定年を過ぎたお子さんが、また香川県に戻ってくるという政策が取れないものかと思う。魅力あるまちづくりという観点もあるし、どのような補助金等を行うのかといった問題もあるかと思う。
- いつまでも高齢者がペットと一緒に暮らせるような政策を是非進めていただきたい。「ペットにやさしい香川県」というフレーズを打ち出せば、県外から人も集まってくるのではないかと思う。是非ともお願いしたい。
- がん予防の観点でHPVワクチンについて、キャッチアップ接種が来年3月で終わってしまう。来年3月が終わった時点で、香川県だけでも1年間ぐらい延ばせば、全国的に話題になるのではないかと思うので、是非とも考えていただきたい。

〔委員〕

- 先日から公淵公園で、5月・9月・10月と3回ほど、ボランティアでイベントに参加させていただいた。9月28日は公淵公園の隣にある「しっぽの森」という施設で「動物愛護フェスティバル」というイベントがあり、家族連れや犬を連れていらっしゃる方たちがたくさん来場していた。公淵公園は、近くだったので以前は何度も行っていたが、久しぶりに行ってみると、桜が老朽化してすごく高くなってしまっていて、当時の桜のトンネルが見る影もなくなっていた。それで公淵公園の様子を知りたいと思い、まずはトイレを見た。綺麗に清掃されていたが、古いので洗面台が錆びていて、洋式トイレがなかった。街全体の美化推進という観点で、木を植え替えるとは聞いているが、こういう点も対応していただきたい。

- さぬき動物愛護センターがイオンモール高松で「お出かけ！しっぽの森inイオンモール高松」というイベントをしており、パネルを見た。こういう所でパネル展示をしているのは良いと思った。西村ジョイや満濃池森林公園でもやっているようだが、定期的を開催するとか、動物を販売している店舗等にも協力してもらって、県民に関心を持ってもらえると良いと思う。また、県・市・町の広報でも頻繁にさぬき動物愛護センターの周知をしていただきたい。
- 坂出に友達がいるが、その方は野良猫を拾ってきて、避妊の手術を自費でしている。一部は補助があるそうだが、それでも何匹も避妊の手術を受けさせている。その方から、地域猫として餌を与えることが許可されているのだろうか、と訊かれた。犬についても、野良犬がかわいそうだということで、餌を与える方がいる。無責任に餌を与えるとどうなるかいうことをみんなに分かってもらって、殺処分がワーストワンであるところを止めるためにも、餌を与えるのを規制するような方法を検討していただきたい。

〔委員〕

- 指標2「保育所等待機児童数」（p.27）も減少しているし、指標14「『かがわ女性キラサポ宣言』登録企業数〔累計〕」（p.40）もA評価である。先月、香川県立視覚支援学校の文化祭を見た。音楽表現やお芝居をしてくださったが、とても行き届いた、本当に温かいものを感じる文化祭だった。香川県は待機児童も減少しており、障害のある子どもさんたちへも行き届いており、女性へもやさしく、とても素晴らしい県だと思うが、全国的に見たときには、そのようなイメージが大きい。企業でもイメージづくりは大事だが、県のイメージづくりもとても大事だと思う。来年は県立アリーナが開館するが、これを利用しない手はないと思うし、大きな起爆剤の要素を持っているので、来年が本当に楽しみである。この機会に、香川をもっともっと多くの方に知っていただき、イメージづくりに発展したら良いと思う。

〔委員〕

- まず資料を読んで驚いたのが、資料2の「県政世論調査から見た施策（分野別）の評価」（p.20）で「農林水産業の振興」の重要度は7位（p.21）ということで、上位の方だが、満足度は最下位（p.22）となっている。今まで最下位から2番目・3番目はあったと思うが、最下位というのを見て、ショックを感じた。満足度が最下位ということは、お魚離れにもつながっているところがあるのではないか。漁場の環境の変化によって生産量は明らかに減少しているし、油などの各資材も高騰している。生産者は苦しい状況だが、それでもブランド水産物の生産拡大が進み、オリーブの名前のついた魚が随分と見かけられるようになったと思う。オリーブサーモンも本格的に市場の方に出回るようになった。
- 今朝、新聞を読んでいて、大変目を引いたのが「ムラサキウニ 高級食材に」という記事である。私も若い頃に夫と一緒に沖に出て、ムラサキウニを採ったことがあるが、香川県で採れるものは大変小さく、中を開けてみると小指の先ぐらいの身しか入っていない。こんなの食べても美味くないぞと夫が言っていたが、これを逆手に取った多度津高校の生徒はすごいと思った。ムラサキウニは磯焼けの

原因にもなっており、全国的にもものすごい数が生息している。庵治にある香川大学の瀬戸内圏研究センターとタイアップして、多度津高校の12名の生徒と地元の漁師さんとが海に潜り、1時間足らずで約500匹が取れたが、岩肌は藻場が全くない状態であったということである。現在、私の家の前でも藻場の造成するための漁礁の作成作業をしている。もう3回目になると思う。作成後、沖の方に設置されるが、その後の結果が私たちの耳に入っていない状態である。藻場が着実に養殖できて、増えてきているのかという点が質問点である。海に沈めて養殖しているとは聞いてはいるが、どれだけ増えたのか。しかし、この9月に、多度津高校生が潜った時には、岩肌が見えている状態だったということなので、大して変わりがないのではないかと感じた。厄介ものを養殖して高級食材にするという点に本当に驚かされた。11月22日に賞味試験を計画されているとのことであり、その結果も楽しみにしている。

〔委員〕

- 資料2の35ページ「5 家庭や地域の教育力の向上」というところで、指標10「保護者学習会への『さぬきっ子安全安心ネット指導員』の派遣数」がC評価となっている。これはコロナの影響もあったということだが、今では学校行事が再開されている傾向にあり、派遣数が増加しているとのことである。PTA等に対し制度の活用について積極的に周知していくという記載していただいております、PTAとしても積極的に協力したいと思う。私も「さぬきっ子安全安心ネット指導員」をさせていただいております、現場の声をお伝えしたい。いろんな学校で学習会をしているが、大抵は体育館を使用する。しかし、体育館の様子は学校によって本当にまちまちで、プロジェクタースクリーンが綺麗に整っているところもあれば、全く整備されていないところもある。子どもたちは学校を選べないのに、こんなに環境が違うんだなと思った。また、体育館ではまだまだ空調の整備ができていない。体育館は災害時には避難所にもなる。夏に体育館で学習会をしていて、汗だくになったところもあれば、空調がきちんと整っているところもあり、これもまた学校によって違う。これは市町の予算なのか県の予算なのか、分かりかねるところはあるが、県内の子どもたちが、こんなに差がある環境で学習・学びをしているということを報告させていただく。
- 35ページの「1 施策・事業実施の背景の現状」の中で「家庭での教育について悩みや不安がありますか」という図があるが、香川県教育委員会生涯学習・文化財課が誇れるボランティア事業として、さぬきっ子安全安心ネット指導員の学習会のほかに、親同士の学びを取り入れたワークショップで、家庭教育に特化したテーマでグループワークをするボランティア事業（家庭教育推進専門員によるワークショップ事業）がある。私は家庭教育推進専門員をさせていただいております、県内の色々なところに行かせていただいているが、初めて会った保護者の方がニコニコ顔になって自分の子育ての悩みを打ち明けて帰られる、という素晴らしい事業なので、これも是非推していただきたい。来年度は、新しい教育基本計画を策定する年だが、そこにしっかりと盛り込んでいただきたい。知事と教育長にも是非この2つの事業を受けていただきたい。
- 男性の育児参加・家事参加について、お互いに押し付けはやめて、育児や家事を

すれば男性にもこんなにいいことがあるんだよ、ということ発信するべきである。女性の負担の軽減という意味でいい、ということもあるかもしれないが、子どもの心が育つ。お父さんお母さんが喜んで育児や家事に関わることで、子どもとしても両親が喜んで自分に関わってくれている、子育てしてくれていると感じることが、何よりの心の豊かさにつながってくると思う。そういうプラスの心を伝えることも大事だと思うので、是非進めていただきたい。

〔池田知事〕

- ジェンダーギャップの見える化についてお話をいただいた。全国的に女性の方が県外に出ると、もう帰ってこない。これは香川県もそうだとされていて、何が問題なのかということが確かに見えておらず、ブラックボックスになっていると感じる。問題を紐解いて、こういうところが駄目なのではないか、というようなことが見えると、みんながその改善の方向へ進めると思うので、是非取り組みたい。
- 里親についても、少子化を改善していくためには、いろんな形態でお子さんを持っていくこと、いろんな人がいるんだということ前提にしながら考えていく必要がある、その中でこの里親は重要なポイントであるし、周知もまだ十分ではないと思うので、しっかりと取り組んでいきたい。
- 定年後に香川を出た人が戻ってくるという、定年後のUターンについては、本腰入れて取り組みたい。特に香川県は気候が良く、災害が少ないこともあり、定年後に住む場所として、より恵まれた地域であると思う。福祉施設の状況を考えても、高齢者が住む場所として恵まれているのでは、とお聞きすることもある。こういった点をPRして、定年後に香川県に戻ってきてもらえるように、家の問題も考えていかなければならないが、取り組みたいと思う。
- ペットのことはなかなか名案が出てこないが、ペットが高齢者にとっての癒しや生きがいにつながっているのは事実だと思うので、粘り強く引き続き考えていきたい。
- 公渚公園については、御意見いただいたが、桜は手直しをする。それからトイレも手直しするが、池の向こう側の遊歩道も綺麗にしたい。リニューアルを段階的に継続してやっていきたい。
- しっぽの森による広報についても、いただいた内容は良いアイデアなので、スーパーなどよく見ていただけるようなところへ展示がするような取組みを拡充していきたい。
- 大まかに言うと香川県の全国的な知名度についての御指摘だと思う。私も香川県を離れていた期間が長いですが、香川県は、特に東日本から見ると、なかなか縁がないという現状があると思う。御意見いただいたように、県立アリーナは、それを突破する大きなツールになると思う。何とかこれに関連して、障害者アート作品にも素晴らしい作品がたくさんあるので、アリーナでの展示のようなこともあるかもしれないが、是非このチャンスをいろんな分野と関係して、活かしていきたい。
- 水産業について、瀬戸内海を地魚が戻ってくるような海にすること、今年度から今までとはギアを変えて、御意見いただいた藻場の造成もそうだが、箇

所を増やして、本格的に進めている。まだ結果が見えてこないということだと思うが、それも見えるようにしたいと思うし、1年・2年の取組みではなく、中期的に取り組んで、少なくとも10年後には魚が戻ってきた瀬戸内海にしたい。

- オリーブハマチやオリーブサーモンといったブランドは、認知度がかなり上がってきた。私も大阪や東京の市場へ時々セールスに行くが、向こうの仲買人の方から、この養殖ものの売れ行きがすごく良く、安定していることも魅力だし、その中でも香川県のオリーブハマチやオリーブサーモンは抜群に商品価値が高いという、すごく好評価を得ているので、今後とも伸ばしていきたい。
- ムラサキウニは私も記事を見て、すばらしい取組みであると同じ感想を持った。成功するようしっかりサポートしていきたい。

#### 〔教育委員会〕

- 体育館の空調について、小学校・中学校は設置者である市・町が整備するものである。しかし、高校の体育館にも空調はなく、このうち十数か所の体育館が避難所指定にもなっているので、今年度は緊急対応で冷風気化扇というものを入れて対応したが、今後対応を考えなければいけないと思う。
- さぬきっ子安全安心ネット指導員の学習会や家庭教育推進専門員の講座について、私も受講させていただけたらと思う。

#### 〔健康福祉部〕

- HPVワクチンのキャッチアップ接種について、来年3月が期限となっているが、最短で4か月あれば必要な3回の接種を受けることができるので、引き続き受診勧奨をしていく。
- 今の時点では、来年3月以降延長するかどうかは答えられないが、現在のところ接種率がおそらく50%を下回っている状態なので、国の動きや市町の意見も伺いながら、早期発見のためあるいは予防のためにどのようなことができるか、考えていきたい。
- 地域猫について、市町が認めた団体が猫に餌をやる行為は、地域で猫の面倒を見ていこうということで可能である。一方、野良犬に餌をやる行為は、野良犬をどんどん増やしてしまう要因になるので、厳に慎んでいただきたい。しっぽの森を中心に、しっかりと普及啓発をしていかなければいけないと考えている。

#### 〔委員〕

- 分野5「地域福祉の推進」について意見を述べたい。指標20「認知症サポーター養成数」(p.50)がかなり増えており、A評価となっている。これは当然だと思う。私の近所に認知症サポーターになられた方がいたので、良いことですねと言うと、その方はまだ60代だが「これは認知症の方を支える立場になるものだが、実は、後々の自分のためにやっているんですよ。自分がもっと高齢者になって、認知症の危険性が増えてきた場合に、どういう対処したら良いのかを学びたい、もう生涯学習みたいなもんですよ。」と言っていた。認知症サポーターの養成数が増えているのは、そのようなことに原因があるのではないかと思う。県の方で、これからも進めていただければ、支えになると思う。私たち民生委員は、支

えの社会、地域共生社会を推し進めており、このように順繰りで、認知症の方を支える立場の方が、また支えられる立場になっていくという形で進めていくことが重要だと思う。また、認知症に限らず、高齢者の一般的な生活それ自体にも、支援が広がっていけば、より安全で安心な社会ができるのではないかと思う。

- 50ページの一番下の「県政世論調査結果」で、「参加するための交通手段が少ない」と記載がある。これは、実は講座や研修を受けたいが、通えないという方だと思うが、これが今、特に田舎の方では、高齢者の問題になっている。もう80代後半もしくは90代になった方が、今までは車で何とか移動していたがとても難しくなってきたという時に、どうやって移動するか。バスはあるが、バス停までが遠く、困っている。そういう点を何とかしたいということで、市町の中には乗り合いタクシーのような形の実証実験もしていたところもあるが、県の方でも高齢者が買い物や病院など、自分の行きたいところへ行けるようなサポートをお願いしたい。

〔委員〕

- 資料2の20ページ「3 県政世論調査結果から見た施策（分野別）の評価」について、「雇用対策の推進」の満足度の方が低く（p.22）、雇用対策を重要視していただきたい。「指標一覧」（p.13～19）の中で、15ページにある指標50「県内大学卒業生の県内就職率」がD評価、16ページの指標67「高等技術学校修了生の就職率」もD評価になっている。指標67「高等技術学校修了生の就職率」に関する施策については、122ページに記載があり、その部分でD評価の中の「進捗率に関する要因分析」の中で、「修了者数は増えたものの、一部の事務系の職種において就職に結びつかなかった」という記載がある。今の求人状況を見ると、事務系の求人は1倍未満で、技術系の求人の比率がここ数年来は圧倒的に高いという状況がある。先ほど委員からの御質問で知事もお答えになっていて、企業誘致や既存の製造業の企業でも力入れておられるというお答えもあったし、労働組合としての政策要望でも、やはり「ものづくり産業の」っていうことをこれまでもずっと申し上げてきた部分である。何が申し上げたいかと言うと、123ページの「5 総合評価」の中で、デジタル人材を育成していったって、ものづくりのところにも、というような記載がある。本当は職業選択の自由があるっていうことは置きつつも、そういう求められる・求めたい職種については、もう少し教育の部分を手厚くしていただくのと併せて、やはり労働条件、賃金、私どもで求めている働き方といったところもしっかり充実していただいて、伸ばしたいところに人が集まるようなお力添えを是非お願いしたい。県内に若い人たちが集まるよう、私どもの立場で何か御協力できる部分については一緒に取り組んで参りたい。

〔委員〕

- 15ページにある指標50「県内大学卒業生の県内就職率」がD評価となっているが、卒業生が県内に定着するのはなかなか難しい。最大の要因は、今日はお見えになってないが、香川大学卒業生の県内定着というのがやっぱりないということである。香川大学以外の私立大学では、70%から80%の卒業生が県内に定着している。この目標値をいつまで掲げても、多分ずっとD評価のままである可能性は

あると思う。この点を考えていく必要がある。

- 分野25「文化芸術の振興」について、香川県の文化芸術に関しては、いろんな捉え方があると思うが、香川県は小さい土地だが、文化芸術に関しては非常に大きな素材がいっぱいあるという、そういう前提で考えることができると思う。資料に挙げられている人づくり、それを育む環境づくり、それから文化芸術による地域づくりという、この3点において取組みが非常に進展しているというか、きちんと取り組まれていると思う。施策78「文化芸術を担う人づくり」(p.203)について、「4 施策を構成する主な事業」の中で「東京藝大連携『瀬戸内海分校プロジェクト』事業」であるとか、あるいはもう1つ、規模的には非常に小さいが、「香川の芸術体験推進事業」(p.204)とかは、細かいプログラムではあるが、それをきちんと継続してやっていくことによって、そこに関わる人たちが育っていくということが考えられると思うので、ずっと続けてやっていただきたい。ただ残念なのは、こういう人たちを育てても、先ほど言ったように、18歳が来ると、県内のそういう才能が他のところに行って花を開くという、そういうケースが非常に多いわけで、それでも、そういう人たちを生み出している香川県ということにプライドを持って、きちんと人を育てていくということが必要だと思う。
- 施策79「文化芸術を育む環境づくり」(p.205)についても、いろんな事業をしていただいているが、「障害者文化芸術活動推進事業」(p.206)も何年か前から具体的に入ってきたが、非常に今、活発な活動が行われていて、先ほど池田知事からお話のあったとおり、素晴らしい作品がいっぱいある。それをみんなに見ていただく作業も今進んでいるということなので、この辺りも、私たちもプライドを持っていけばいいと思う。
- 施策80「文化芸術による地域づくり」(p.207)については、瀬戸芸に象徴されるように、文化芸術を通して地域の活発化をするということで取り組んでいるものである。四国遍路の登録はまだ時間がかかるかもしれないが、これも継続してやっていかないといけない。文化芸術を通して、香川県はどのようなものであるかというところを見せるという、あるいは見てもらうという、そういう作業についても、非常によくできているのではないかと思う。先ほどお話にあった県立アリーナによって、どのような形で香川県の評価を外に向けて発信できるかということは、非常に大きな部分であり、大きいものを持ってきて、大きな派手なものをやって、それで日本全国に名前を知って欲しいという、その気持ちはよく分かる。しかし、それよりは、県民がどれだけ文化芸術を毎日楽しんでいるか、あるいは自分たちが育てているか、それによって自分たちが元気に生きているかどうか、そういうものがないと空中にあるようなものになってしまうので、できるだけ県内にあるものを育てていく、発見していくという作業がとても必要ではないかと思う。その意味では、ここで事業で入れられている「地域の伝統文化・技術等の調査記録・発信事業」や「地域に息づく讃岐の伝統文化再発見事業」(p.208)は、これらも規模は小さいが、この小さな規模でも十分に積み重ねていくということがやはり大切なのではないかと思う。
- 繰り返しになるが、そのようにせつかく育てた人たちが、県外に出ていくというのは、本当に県内にある大学としては非常に残念ではあるが、この問題は多分こ

れからもずっと続いて、悩んでいけないといけない問題だと思う。香川県内の文化芸術には、本当にたくさんの材料があるし、それを掘り下げて、あるいは発見していくという作業も非常に大切だが、それでもこの小さな県でも文化的な環境に非常に差がある。だから地域の文化の差をどのようにして埋めるか、ということは、県と地域の自治体が連携して丁寧に掘り下げないといけない、そういう作業ではないかなと思うので、この香川県内全域に文化芸術活動の充実がなされるように是非お願いしたい。次の人材の発見もどんどんしていただいて、さらに香川県の文化芸術活動が盛んになるように、是非やっていただけたらと思う。

〔委員〕

- 資料2の105ページを見ると、施策36「人権擁護活動の充実」の「1 施策・事業実施の背景の現状」のところで、人権侵害があった時、「何もせず、我慢した」と答えた人が前回との調査と同程度であったというような記載がある。例えば、夫婦間のDVやモラハラのような場合に、被害者の方が、私が悪いからこのくらいのはされても当然だというようなことで我慢してしまうということが割と多い。会社の場合などのパワハラの問題にしても、やはり被害者の方が、自分ができてないからこれは自分が悪いんだと、そういう被害者の方が自分が悪いと思うようなケースは、結構いろんな場面である。ここの105ページでは、指標57「隣保館職員の相談援助研修」で、相談を受ける側の研修が指標として出されているが、できれば学校を卒業して成人・社会人になった人たちに対して、被害者になったときに声を上げていいんだ、というような人権の重要性を、被害者の立場に立っても分かるような啓発や活動にも力を入れていただきたい。

〔委員〕

- 香川県に住みたいという人は、郷土愛が強い人と思っていて、10年前ぐらいに四国新聞で県民の2,200人ぐらいから回答いただいたが、幸福学、どういう人が幸福を感じているかということ、香川県が好きな人であるということと、例えば自治会のような地域コミュニティにもものすごく接触がある方、あと面白いのは「まんばのけんちゃん」が好きな人は幸福度が高かった。これは結局、地域の食材ということで、香川が好きな人がやはり幸福度が高いということで、そういうことを考えると、小さい時から香川県の歴史や出来事であるとか、自治会の活動や祭りに参加したり、運動会のようなイベントに参加したりとか、香川県をもっと好きになってもらうことが必要だと思う。今は自治会のコミュニティがだんだん薄れていって、学校の放課後の授業も、教職員の方々も大変なので薄れているので、何とか新聞等で情報発信して、香川県のいいところを発信していきたい。
- 逆に香川県民よりも香川県外から転居してきた人の方が幸福度が高い。これを専門家に訊くと、香川県民は香川県の良いところを当たり前だと思っている。温暖で、平野部も多い。逆に県外から来た人の方が、良いまちだと思ってくれている。そういう部分も香川県民にもっと知ってもらいたいと思う。健康・長寿の観点で、野菜を食べましょうといった取組みがされているが、子どもの時からやらないと、急に運動しましょうとか、県産品の野菜を食べましょうというのはなかなか難しいので、小さい時から積み重ねていくことが大事なのではないかと思う。

- 先ほど震災対策の話があったが、先日、時事通信と世論調査を1千人対象に実施したところ、対策が不十分だという人が増えた。私の肌感覚ではみんなの意識が高まったのに、対策ができてない人が増えたということには理由があって、能登半島地震のときにこれぐらい対策していたらいいと思っていたのが、例えば水の問題やトイレの問題は実はこれぐらいまで対策しなければならなくなったので、それからいうとまだ準備が進んでない、という意味で下がっていると思われる。
- 最近テレビで、政策決定においてA Iを活用するという話がたくさん出ているが、香川県ではそういうことを今までやったことがあるのか。A Iの取扱いについてはいろんな部分があるかもしれないが、このような会やいろんな現場に出て、拾えるところがあると思うが、やはり声なき声というか、いろんな声をすくい上げることができるようにするため、今後活用する考えがあるのかお伺いしたい。

〔委員〕

- 資料2の99ページの指標50「県内大学卒業生の県内就職率」のことで、お伺いしたい。人口、特に労働人口が減っているという中で、何度かいろんな場所でその若者・大学卒業生がなかなか定着しないというお話を聞く。大体その理由としては、希望する業種や職種の給与が少ないことが理由として、大体どのレポートでも挙げられているのを拝見するが、具体的にどういったものを希望しているのか、どうすれば県内に残るのかというような例があれば是非伺いたい。「今後の方向性」の中で、「県内企業の魅力や情報の発信を行う」ということが書かれているが、希望する職種や業種がないなら、いくら今ある企業の魅力を発信してもミスマッチである。今、地域放送の業務継承という意味でも本当に人手の問題は課題だと思っているので、どういったことを求めているのか、他の委員も言及していたジェンダーギャップの問題であったり、中間層にあたるそういう収入の問題であったり、この希望の中に実は隠れているのではないかと思うので、具体的にどういったことを若者が求めているのか、是非共有いただければありがたい。

〔委員〕

- アメリカの研究チームが「Nature Aging」という科学雑誌に、今世紀に100歳まで生きる人の割合は、女性で15%、男性で5%を超えることはないという予測を発表した。昭和19年生まれの人々の平均寿命は、女性で88.68歳、男性で83.17歳であり、100歳を迎える確率は、女性で13.9%、男性で4.5%とのことである。「人生100年時代のフロンティア県・香川」とあるが、平均寿命が110歳の社会を仮定した場合、女性の70%が100歳まで生きるためには、今ある死亡の原因のほとんど克服しなければならないということである。
- 分野9「安全で安心できる暮らしの形成」について、D評価となっている指標がある。施策27「暮らしにおける安全確保」の「1 施策・事業実施の背景と現状」では、成年年齢が18歳に引き下げられた中、20歳代までの若年層からの相談は417件で、60歳以上からの相談が1,972件となっている。セミナーもされているが、N I S Aや新N I S Aなどもあり、投資詐欺やロマンス詐欺などいろいろあ

るので、このようなことも、もう少し皆さんに伝えることができたらいと思う。

〔委員〕

- 男女共同参画が進まない大きな原因は、家庭における家事育児について、女性の負担が大きいということである。内閣府と厚生労働省の調査でも、男性が家事育児に協力しない家庭は、子どもの数が1.0切っているが、男性が6時間以上家事育児に従事している家庭では1.8人産まれているという統計が出ている。また、憲法24条には、両性の平等で相互の協力により維持されなければならないとの条文がある。しかし、家事は手伝うものと思っている男性が多いが、これはお互いに協力するということがないかと思う。そのような憲法に関する教育現場での取り組みや広報活動をお願いしたい。
- 呼称問題を是非お願いしたい。いまだに「主人」・「亭主」・「旦那」とか「奥さん」とか言われている。「主人」は1946年の日本国憲法が成立するまでの家制度の言葉であるし、「旦那」は江戸時代の上下関係の言葉なので、今後は「夫」・「妻」、「連れ合い」・「パートナー」、また、「嫁姑」ではなく「夫の母」・「夫の父」と呼んではいかがか。法律でも、「看護婦」は「看護師」になり、「父兄」は「保護者」になった。これは法律で規定されているが、家庭に関する言葉は独り歩きしているところがあるので、習慣・慣習を改めていただきたい。ここへ来る前に、男女参画・県民活動課に寄って、トイレに貼って下さいと相談に行った。今日から実践いただければ、少子化対策にもつながるのでないかと考えている。

〔池田知事〕

- 認知症サポーターについて、認知症の人も増えてきているが、徐々にではあるが認知症の人も一緒に暮らしていくという風潮や流れができてきていると思う。それをどうやって促進できるかということ、これからの取り組みの中で考えたい。
- 高齢者の移動の問題もそのとおりであり、車に乗れなくても移動できるよう、定額を払えば1か月乗れるタクシーといったものをやろうとしている市町もある。このような市町の取り組みを応援しながら、高齢者の移動手段を確保したい。
- 雇用問題については、人手不足の問題が顕著になってきていることは、雇用の柔軟性のような面には、逆に追い風の部分も大いにあると思う。この人手不足を背景として、柔軟な働き方にどんどん舵を切れるよう、県庁もそうだが、企業にも、リモートワークやフレックスのことや採用の年代の柔軟化、50歳以上でも正規採用を考えてもらうなど、これまでの常識に囚われずに採用することを考えてもらいたい。そして、雇用後の働き方の内容についても、柔軟に働けることは人手不足の解消にもつながるので、この機に大いに前に進んでほしいと思う。
- 県内大学卒業生の県内就職率について、香川県は全国の中でも、ほとんどワースト1位か2位ぐらいで、希望者が県外に行ってしまう。そういう受け皿の容量がやはり少ないということがあり、これからでももっと増やしていけるよう取り組みたい。

- 文化芸術の振興について、香川県は文化芸術の裾野が広いこともあり、子どもの文化芸術に対してのレベルは高いと思う。これを続けていかないといけないと思っており、アーキペラゴという民間の団体が芸術士を学校に派遣して、子どもたちにいろんなアートの教育をしてきて、大きな成果が上がっていると聞いている。こういった取組みをさらに広げられるようにしたい。私も先日、ある会で子どもたちが即興で絵を書いたり、模型を作ったりしている現場に立ち会ったが、考えられないぐらいレベルが高かった。香川県の文化芸術のレベルの高さはかなりのものだと思うので、これを続けていけるように、地道な努力を続けたいと思いたい。
- 政策決定にAIを活用することについて、AIは個人情報の問題とか特殊詐欺との関係とかいろんな心配事があるが、そういうものを乗り越えながら、県庁でもどんどん使う方向で進めていきたい。まず最初、県庁の仕事の引継ぎのようなことをAIにやってくれるようなことを始めているが、もっと使えるところは大きいと思うので、取り入れていきたい。
- 若者や大学卒業生の県内定着について、香川県には、最近経済産業省が定義づけた「中堅企業」と言われる、大企業ではないが立派な企業が相当ある。県民がそういった企業のことを知らない、職について言えば保護者が知らないということがあると思う。それは無理もないところもあって、ほとんどの中堅企業は最終製品を作っておらず、パソコンの一部分なんだけどもこれがなかったら何もできないような大事なパーツを作っていて、世界的にもかなりのシェアを占めている。そういう企業がたくさんあるが、それが県民に知られてないということがあるので、保護者の方も含めてそのような企業を知ってもらい、自分の子息の方にも就職を勧めてもらえるような取組みを進めていきたい。
- 県民の健康寿命を伸ばしていかなければいけないと思うが、一人一人の生活習慣や社会参画の機会をもっと増やすなど、多角的に取り組みたいと思う。今、香川県の平均寿命は全国20位ぐらいだが、健康寿命が30位ぐらいなので、それを健康寿命がベストテン入りできるようにということをスローガンに進めていきたい。